

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2014年2月28日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

生活保護基準は国民全体の問題 引き下げやめて！

3月分の生活保護支給日宣伝

東区

寒風の中、チラシの受けとり200枚

生活保護制度を良くする会では、3月分の生活保護支給日に合わせて、生活保護基準の引き下げの中止を求めて、宣伝行動を行っています。

2月27日が支給日の札幌市では、各区で行われましたが、東区役所前では12名が参加しました(写真)。手がかじかむ寒い朝でしたが、通りすがりの方が、次々チラシを受け取り、配布枚数は200枚。中には「本当に頭にきている。安倍首相に言いたいことがたくさんある。がんばって」などと、激励する方もいました。



良くする会では、当面、4、5月の支給日も、行動を予定しています。また、4月から生活保護基準の引き下げが行われた場合は、2回目の不服審査請求を行います。

提出集会は5月15日(木)午後 2時～4時 4階会議室を予定しています。

全道で再審査請求 1000件越

「冬の暮らしはさらに深刻」 **函館**



生活保護基準引き下げの中止を求める審査請求(北海道で約1400件)についての裁決書(棄却)が、次々届いています。これに対して再審査請求の取り組みが進められています。現在1099件となっています。

20日、函館でも、福祉事務所に対して57件の再審査請求書を提出しました(写真)。担当課長は「明日間違いなく、田村厚生労働大臣にお送りします」と述べました。道南勤医協でも、審査請求をした患者・利用者宅を訪問し、棄却のお知らせと再審査請求について説明しました。同法人の甚田さんは「灯油ポリタンク6個で冬を過ごすと話していた方や、食費が高くカボチャやイモを団子にして食べているという方にもお会いしました。部屋はとても寒く、冬の深刻な暮らしの実態も話してくれ、再審査請求を決意してくれました。引き下げ中止が必要です」と話しています。

いのちとくらしを壊す政治に怒る2. 23総決起集会 から

母子加算復活で安堵していたのに 生活保護引き下げはやめて！ 伊賀 理香子 さん

私は、9才の娘と二人です。夫の暴力がひどくなり、着の身着のまま家を出でて、離婚しました。お金もなく生活保護を利用せざるをえませんでした。

生活保護を利用しはじめたころ母子加算が廃止になり、その復活のため、娘と雨の日も日差しの強い日も、生活と健康を守る会の方と一緒に街頭演説、パンフレットの配布、募金活動を行い、私と娘は全国放送のテレビにも出て復活を訴えました。結果、ようやく母子加算の復活が実現しました。

ほっと安堵したのも束の間、4月から消費税アップ、保護費削減とまた苦しい日がかかるかと思うと、朝、目が覚めることすら恐怖です。消費税アップ、生活保護引き下げ反対のとりくみを広げましょう。

